

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0472200682
法人名	社会福祉法人 常盤福祉会
事業所名	多機能型地域ケアホーム つきのき
所在地 (電話番号)	宮城県柴田郡柴田町槻木上町 1丁目1-32 (電話) 0224-56-6661
評価機関名	特定非営利活動法人介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 20 年 1 月 30 日

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	15 人	常勤 専任1人, 兼務12人, 非常勤2人, 常勤換算6人	

(2)建物概要 * 兼務…事務員(3)、管理者(1)を含む

建物形態	併設	新築
建物構造	木造 造り	
	1階建ての	1階 ~ 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円
敷金	有(円) ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	8 名	男性 2 名	女性 6 名
要介護1	1 名	要介護2	0 名
要介護3	3 名	要介護4	3 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83.5 歳	最低 72 歳	最高 92 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	みやぎ県南中核病院・玉淵医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

槻木のJR駅に近い町の中心地のスーパー跡地に、社会福祉法人常盤会によって建てられて3年目になる。法人の理念として「誰もが安心できる地域社会づくり」を目指してきたことを受け継ぎ、認知症高齢者や障害を持つ人と職員が共に響き合って暮らす「響存」を合言葉に共生型グループホームとしてスタートした。重度の入居者を含む異年齢で多様な構成の大家族を、職員は異動も少なく一致協力してケアしてきた様子がかがわれる。隣接する同法人のデイサービス・居宅介護支援の活動と共に、子育てサロンや運営推進会議を活用し、保育園や生涯学習センターとの交流をはじめ地域に溶け込み、地域の各層との接点を広げる努力をしてきた。その結果地域に理解を広め信頼されるホームになりつつある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価も高かったが、課題とされた「過去の経験を活かしたケア」「ひとりでのことへの配慮」についても、家族との密接な関係を保ち、情報を得て、自立支援を実現しつつある。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>非常勤職員も含めて自己評価表の記入をしてもらい、検討を行っている。今回の外部評価で話し合った内容も職員とともに深め、反省材料にする予定とのことである。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議を隔月に行い、開催時には、民生委員・行政区長・町職員・入居者・入居者の家族など決められたメンバーのほかにも地域住民にも参加を呼びかけ、多くの人にホームの理解を広める手立てを講じている。その結果徐々に反響がひろがり、防災訓練への協力申し出など地域の関心が深まりつつある。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族との関係を重視し、交流会を開いたり、行事への協働や参加、通院を通じての情報の共有などを図っている。月1度の「ケアホームだより」に個別の近況報告を加筆し、面会時に意見聴取をこころがけ、疑問や要望に速やかに応える努力をしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町として、行政と各種介護事業所が交流する「ネットワーク会議」を組織し、2か月に1度情報交換や研修の会を開いて地域全体の福祉の底上げが図られている。ホームとしては散歩や買い物の折近隣住民との接触を図ったり、保育園、学校、生涯学習センター等の行事に参加したり地域の各層への働きかけを心がけている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「誰もが安心して暮らせる地域社会づくりに積極的にかわる姿勢を使命とし…」と基本理念にうたい、多機能型地域ケアホームとして、同法人経営のデイサービス・居宅介護支援事業所共々障害者・子育て支援などの地域で安心して暮らせる体制作りを目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「響存」の理念をロッカールームやカウンターなど職員の目につきやすい所に掲げており、また折にふれ管理者が基本的な考え方を話すなど、理念の共有に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敷地の一面にあるゴミ置き場の清掃などを積極的に行い、地域の人々からも買い物・散歩時に声をかけられるようになっている。地域の行事にも参加し、最近発生した近火の折には心配して駆けつけてくれた人もあった。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	非常勤職員も含め、全員で自己評価に取組み、検討している。また、外部評価の折の話し合いや結果を話題にしてサービスの改善を図る姿勢が見られる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にはメンバー以外にも入居者の家族や地域住民に参加を呼びかけ、隔月に開催している。その記録もよく整理されている。予期した以上に反響があり、この会議を通じて地域の理解も深まりつつある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町当局と柴田町内の各種介護関連事業所で組織する「ネットワーク会議」があり、情報交換や研修を行っているが、地域の福祉サービスの向上には町行政との更なる連携や協働を進められることが望ましい。	○	ホームとして、ネットワーク会議以外にも行政との協力関係を強めることや、ネットワーク会議の活動の具体的な進展を図りたいとしているので、是非実現にむけて努力をお願いしたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回の「ケアホームだより」に個別に入居者の近況を書き加え、会計報告を併せて行っている。面会時に入居者の状況について話し合いを行い、小遣い帳を確認してもらったりしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に設置したご意見箱はあまり活用されていないが、面会時に話し合ったり聞こえてきた意見に対しては誠実に応える努力をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の定着率が極めて良いことと、隣接するデイサービスの職員との協働の機会が多く、双方の職員が共に入居者について理解している。離職時には、入居者の精神的ダメージを少なくする個別の配慮を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への派遣のほか月1度のケア会議に合わせて研修会を開催(おもに夜間)し、夜勤者を除くほとんど全員が毎回参加している。また職員間の人間関係が良く、新入職員に対する管理者や先輩職員の指導も良く行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内介護関係事業所の「ネットワーク会議」のグループホーム部会で交流研修が行われ、交換研修の企画もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に隣接するデイサービスを通じてホームを知ってもらったり、職員と馴染んだり、体験的に立ち寄ってもらったりして本人の納得の上で入居できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	3年目となった現在、高齢者・若い障害者・年代がいろいろの職員の三者が一つの家族のようなかわり方ができるようになってきており、ゆったり共に支え合って暮らしている様子が見られる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	比較的重度の人が多く、直接意思を表現しがたい人がある中で、情報収集とその共有の努力で意向の把握が進んできている。また「あれっ？」と思う言動の解明に努め、意向を汲んで対応する努力もよく行われている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族やデイサービスの看護師・ケアマネージャー等との話し合いもある。申し送り帳には特記事項のほかに、毎日昼夜の担当者が全入居者について1～2行のコメントを記入し、出勤した者が必ず目を通す体制を作っていることは評価される。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の各入居者の記録も詳細に記入され、介護計画の見直しも行われている。日々のケアが介護計画に沿って行われやすくするため、モニタリングの方法について更に工夫されることを望みたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接するデイサービス・居宅介護支援と共に、高齢者・多様な障害者・子育て等の問題について、地域のボランティアに協力をもとめながら共に解決していくというスタンスで、可能な限り支援活動を行おうとしている姿勢は高く評価される。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には家族の付添で各かかりつけ医に受診しているが、必要に応じて車輜による同行や、情報伝達の配慮をしている。最近近所の医師から緊急時の往診について受諾され、体調変化の激しい入居者への不安が解消されつつある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	体調の不安定な入居者について具体的に職員及び家族がターミナルケアについて考えを深める機会を持った。職員は、ターミナルケアを希望する家族の意思に応えたい思いを共有しており、医師の協力が期待できるようになって準備体制はできつつあるが、未経験の不安がある。	○	夜勤者1名の時の不安を運営推進会議で話したところ、家族・第三者から理解と激励の声がかかったという。更なる研修と環境整備によって不安の軽減を図りたいとのことなので、関係者の精神的後ろ盾をてこにして、万一の場合に備える今後の在り方に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	重度化が進む中で尊厳については特に注意をはらって介護にあたっている様子が見受けられる。居室への入室時の言葉かけや記録類の管理についても気配りをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、入浴、食事の時間など各人のペースを大切に努力が行われており、入居者はゆったり豊かな表情で過ごしているのがうかがわれる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、調理、後片付けなどできる人にはしてもらい、食材の買い出しを共にして、希望の献立を取り入れたりにしている。職員も一緒に和やかに食べ、必要なサポートをさりげなく行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる体制があり、ほとんどの人が毎日夕方を中心に入浴している。共生の障害者は主に夕方帰宅後に入浴し、夜間寝る前に入浴を希望する人に対応するため、夜間のパート勤務者を配置している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理、後片付け、洗濯物たたみなど役割を楽しむ姿もあり、デイサービスの書道や生涯学習センターの行事への参加もある。書き初めはホームへ指導者を招いて行った。好天の時は散歩をするよう努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常の買い物や散歩のほかに行事として花見や菊人形見物、ドライブなどを行っている。帰宅、外泊、家族との外食などの支援も必要に応じて行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室から直接ぬれ縁へ、さらに外へ出られる構造になっている。日中玄関の施錠はせず見守りで対応している。隣接のデイサービスの職員にも見守りをお願いし、協力をえている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日頃から職員対象に消火器、通報装置などの場所確認をしたり夜間対応の避難訓練を行っている。近所で夕方火事があり、期せずして本番さながらの避難をしたが、スムーズに行えた。備蓄も時々点検しては不足を補っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を記録し、バイタルチェックの記録とともに健康管理に役立てている。献立は法人の栄養士の協力でバランスの良い食事を心がけているが、入居者の希望を取り入れたり、差し入れの食材を活用したりメニューを豊かにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	床暖房による保温(居間)、換気、天窓による採光など、居心地の良い環境整備を図っている。庭に面した畳のスペースもあり、居間で思いおもいに憩う姿や廊下のベンチで仲よし二人語り合う姿も見られた。パーキンソン病の人の居室前には歩幅に気付かせるテープを張るなど、個別の配慮が見られた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は畳とフロアの組み合わせで段差がなく、広めのスペースに収納場所が作り付けられている。ガラス戸の外は濡れ縁で直接外に出ることができる。多くの人が居間で暮らす時間が多いせいか、無人で開放されたままの部屋が多く見られた。		